

【助成事業：本町通り商店街振興組合情報発信力強化事業】

ポイント

子供からシニアまで幅広い世代との交流で街の活性化を目指す

住まいと一体の店舗が多い昔ながらの商店街が、従来のスタンプ事業に加え、高校生と連携した子供向け職業体験イベント「ポンポコキッズ」や高齢者の買い物を支援する「つまみ食いツアー」など、地域の人々との幅広い交流による活性化への取り組みを展開。昔の面影を残す、人情味のある商店街、ママにも子供にも優しい商店街としての認知度が高まり、若年層など新規顧客の増加と日常のにぎわい創出に効果を上げている。

商店街情報

所在地：三重県四日市市本町9番8号
 地域の人口：312,049人 136,528世帯
 （四日市市 平成30年3月現在）
 商店街の種類：地域型商店街
 組合員数：43名
 店舗数：29店舗（主な業種構成：生鮮三品、和菓子、惣菜、薬局、時計・法則、飲食・サービスなど）
 TEL：059-352-2265 FAX：059-352-4018
 URL：<http://yokkaichi-honmachi.com/>



商店街の風景

商店街の概要と近年の環境変化

本町通り商店街は、JR四日市駅から北に徒歩で3分に位置し、150mの街区とアーケードを有する地域型の商店街。生鮮三品や飲食店のほかに時雨煮や和菓子など100年以上続く老舗が軒を並べ、地域になくてはならない伝統豊かな商店街である。

当商店街の立地する四日市市は、古くから交通と物流の要衝で、室町時代に定期的に市が開かれたことが名称の由来となり、江戸時代には東海道の43番目の宿場町として参勤交代やお伊勢参りの人々で賑わった。明治23年に関西鉄道の四日市駅が開業、これを機に商店街が誕生し発展してきたが、昭和20年6月の四日市空襲で全市が焼失。しかし、戦後の復興は目覚ましく、臨海部への石油化学工場等の進出により地域は飛躍的な発展を遂げた。反面、四日市ぜんそくなど公害をもたらしたが、今では環境浄化に努力し、改善が進められている。

当商店街も戦後に復興し、四日市港周辺の産業集積等を背景に、最盛期には50店ほどが軒を連ね、市内で最も栄える商店街となった。しかし、昭和31年に近鉄四日市駅が従来のJR駅の側から1kmほど西に移転したことで人の流れが変わり、かつての賑わいが大きく変化した。このため商店街では、昭和60年に振興組合を組織し、高度化資金を活用してアーケードを設置。さらに、63年には戦災で焼失した地元の山車「岩戸山」を手作りで復元し、諏訪神社の例祭「四日市祭」で奉納するなど地域との連携を深めてきた。

また、地元四日市商業高校との連携による子供向け職業体験イベント「ポンポコキッズ」の実施や、おむつ替えスペースの案内を行うなど子育て世代をサポートする『ママにやさしい本町商店街』を目指して、若い世代へのアプローチを強化している。



地元の氏神を祀る諏訪神社



商店街が復元した山車「岩戸山」

助成事業の概要とその成果

現在の商店街は、自動車中心のライフスタイルやスーパーへの顧客流出等に加え、店主の高齢化による空き店舗増があり、近隣に在住するファミリー層の取り込みが課題。このため助成事業では、子育て世代などに「親しみのわく温かな商店街」の魅力をさらにアピールし、日常の賑わいを取り戻すため、以下の事業を実施した。

<平成25年度事業：本町通り商店街振興組合情報発信力強化事業>

①商店街マップの作成。

組合員店舗27店の店主の似顔絵付のマップを作成。併せて地域の神社仏閣や港湾施設など27ヶ所の名所旧跡、お勧めの歴史散策コースと防災避難ビル17棟も案内した。マップは折り畳んでポケットサイズになり、どこにでも携帯できるように工夫した。



②商店街情報紙「ほんまちポンポコ通信」を年3回発行。

当商店街には、100年以上続く老舗を含む和菓子、時雨煮、魚、肉、青果など個性豊かな商店が軒を連ねている。これらの店の生い立ちやこだわり、個性的なキャラクターなどをより多くの人に知ってもらい、広い範囲の集客を目指してB4判カラー両面印刷の情報紙を作成して四日市市内全域に折込配布した。紙面では、組合員全店の特徴や自慢の商品に加え、事業でつながりのある子育て支援グループの代表や四日市商業高校の生徒らから、商店街を応援する文章を寄せてもらった。

③商店街が復活させた山車の「岩戸山」を紹介する団扇を作成・配布。

「岩戸山」と呼ばれる高さ5mに及ぶ大きな山車は、天照大神が天の岩戸に隠れた際、その前で踊った天のうずめの命を乗せているが、鉦や太鼓の音に驚くと女神に化けていた狸が正体を現して腹鼓を打ち、その鞆丸を膨らませるといふ、全国的にも珍しいからくりが施されている。団扇は、昔、子供たちが遊んだ郷土玩具に似せてこの変身ぶりを楽しめるようにしたもので、山車が引き廻される「四日市祭」に訪れた観覧者に配布された。



<平成26年度事業：本町通り商店街にぎわい力発信事業>

①「本町秋まつり」の開催。

「本町秋まつり」では、諏訪神社の例祭「四日市祭」のイベントとして、商店街が奉納する「岩戸山」の山車を子供達に紹介するイベントや、小学生等を対象にした謎解きゲーム、商店街の食材を利用した料理教室等を開催した。

ア.「岩戸山」と四日市の歴史を学ぼう。

山車の引手の子供達を募集し、四日市と商店街「岩戸山」の歴史を説明した。

イ.商店街謎解きアドベンチャー。

スタンプラリー形式で親子が謎を解きながら商店街を回遊することで、子供達に商店街に親しみを持ってもらった。

ウ.若いママ向けの体験教室。

地域の子育てママたちとの連携で、子連れで通えるママのための体験事業としてお料理教室を開催。商店街の空き店舗を借り上げた「コミュニティサロンいせや」や組合員店舗において、商店街の食材を使った料理教室、「おはぎ」作りの体験、パン屋さんで学ぶパン作りなどの8教室を開催。若い子育て層と商店街の距離を縮めることができた。



②商店街のホームページとFacebookページを作成。

ホームページでは、商店街の魅力や会員店舗の特徴と人の温かさ、定期開催しているイベント等を紹介。Facebookページでは、商店街キャラクター「ポンポコ」を使って商店街の紹介をしながらリアルタイムで情報を発信している。



「パン作り教室」の様子

<助成事業による成果等>

本事業を通じて、消費者に商店街を改めて知ってもらおうとともに、その温かさや利便性を感じてもらえたことから、若年層などの新規顧客が増え、来街者が増加しつつある。また、地域の様々な団体と連携し、住民参加型の事業を展開したことで、地域コミュニティづくりにもつながった。さらにホームページやFacebookの開設によって、リアルタイムでの情報発信が可能となり、若い世代に向けた継続的なアプローチの手段として効果を上げている。

助成事業以降の商店街活動

助成事業で身に付けたノウハウや成果を踏まえ、高校生との連携による子供向け職業体験イベント「ポンポコキッズ」を継続するほか、新規に高齢者の買い物を支援する「つまみ食いツアー」を展開し、幅広い年齢層との交流で活性化を目指している。

①「集まれ！ポンポコキッズin 本町通り商店街」の開催

当商店街では、小学3年～6年生を対象とする職業体験イベントを、四日市商業高校と連携して年2回行っている。きっかけは商店街の近くに住む同校の先生から、「商店街の活性化」をテーマにした課外活動の企画・提案を受けてのもので、同校からイベントプロデュース部の学生約20名が教師の指導のもと運営スタッフとして参加。子供達とともに働くことの楽しさ、喜び、大切さを学ぶ機会となっている。

内容は、商店街の店舗で1時間、子供達が掃除や販売の手伝い、商品の包装、チラシ配布等を行い、給料として商店街で使えるお金「350ポンポコ」（1ポンポコ＝1円）をもらい、そのうち「50ポンポコ」を納税し、残りの「300ポンポコ」で買い物をするというもの。商店街ではこの機会に親子で買い物をしてもらおうと、保護者と一般消費者向けに10%のプレミアム付き商品券を販売。複数のお店で買い物し、スタンプを集めると景品がもらえるスタンプラリーも行い、来街者の増加と回遊性の向上を図っている。



高校生が子供達をサポート



②毎月26日と27日に「感謝デー」を実施

当商店街では、今では珍しくなった紙貼りのスタンプの発行を続けており、感謝デーには、参加店舗による売出しとともに、バス旅行や現金つかみ取りなどができるスタンプ交換会を行っている。

③「本町通りでお買い物 つまみ食いツアー」の開催

高齢者が住む市内の各地と商店街を無料のバスで結び、参加者はボランティアのサポートの下、各店を巡って試食を楽しみながら店主との会話やお買い物をしてもらうツアーで、買い物困難者の支援を行うNPO法人と連携して毎月26日に開催している。同法人では当初、買い物困難者をショッピングモールに案内していたが、中高年からの評価が低かったため当商店街に変更したところ、「個性的な店や商品が並び、店主との会話も楽しい」と喜ばれたことから、毎月の開催となった。ツアーの時に商店街では感謝デーを開催するほか、沢山の無料の試食品を用意して迎えることから、行列ができる店も出るほど参加者の評価は高い。また、このツアーをきっかけに多くのお年寄りが来街するようになったため、NPO法人では商店街の中に「おでかけサポートセンター」を設置し、ボランティアスタッフが一緒に買い物に付き添うなどの支援を行っている。



お買い物ツアーで賑わう商店街

④毎月17日に「ほんまち通り市民寄席」を開催

商店街にある「コミュニティサロンいせや」で落語、大道芸、民話語り、マジックショーなどの出し物が無料で楽しめることから、地域の高齢者等が集う場となっている。商店街にとっても、高齢者等に喜ばれ、来街のきっかけになっているため、5年近く継続している。

自治体による活性化支援等

四日市市

四日市市では、平成23年度に作成した総合計画に基づいて、地域で日常の買い物を支える商店街に対して、維持・再生のための支援を打ち出している。また、平成26年に策定した中心市街地活性化基本計画においても、商業環境の整備の一環として、商店街等が各種イベントの改善やイベント間の連携強化を図るとともに、一体的な情報発信による来街者の増加に取り組むべきとしている。さらに市では現在、近鉄四日市駅側に偏った人の流れを本町商店街のあるJR四日市駅方面にも波及させるため、中心市街地の回遊性を高めたいと考えており、商店街が取り組むイベントや空き店舗の活用に対して以下のような支援を行っている。

- ①四日市市商店街活性化イベント事業補助金
商店街のイメージアップ、集客力増加等、商店街の活性化に効果的な事業に対し、広告宣伝費や会場設営費、会議費等の一部を補助。
- ②四日市市商店街魅力アップ事業補助金
商店街で新規顧客獲得のためのミニイベントやマップ・フリーペーパーの作成、高校生等の若者が中心になった演奏会や展示会等を行う場合、広告宣伝費や会場設営費、会議費等の一部を補助。本町商店街が四日市商業高校と連携して行う子供の職業体験イベント「ポンポコキッズ」には、30万円を補助している。
- ③四日市市空き店舗等活用支援事業補助金
商店街や郊外住宅団地内の空き店舗への出店者に対し、改装費や水道光熱費、広告宣伝費の一部を補助。



ママに
やさしい
本町商店街

商店街の今後の戦略

「みんなにやさしい商店街」へ

「ポンポコキッズ」イベントに参加した子供達や親御さんは、「楽しかった」「また参加したい」「いい体験だった」と喜んでくれており、商店街では子供達が大きくなって買い物に来てもらえるという期待感を持っている。

また当商店街の顧客は昔からの馴染み客が多いため、会話も弾んで「お年寄りにやさしい商店街」のイメージが定着しており、こうした評判もあって買い物弱者対策を考えるNPO法人との連携事業「つまみ食いツアー」が成果を上げている。

今後は地域の人々が交流する場としての商店街をさらに意識して、「みんなにやさしい商店街」を目指したい。イベントの企画・運営等は理事長を中心に役員数名で行っており、担い手不足の状況にあるが、地元の高校や地域の子育て支援組織、NPO法人等との連携を深めイベント等に参画してもらうことで幅広い年代に商店街の魅力を伝え、来街のきっかけにしていきたい。



～ 仕掛け人 ～

四日市本町通り商店街振興組合

中 理事長 奥山眞弘
左 専務理事 加藤健造
右 理事 水谷宣夫

取材を通じて明らかになったこと

地域に居住し、そこで営業する店舗の集合体である当商店街は、営業拠点を置くだけの商店や組織と違い、地域との関係が濃く、顧客との交わりも深い。これを拠り所に、地元の高校やNPOとの連携で子供達、高校生、子育てママ、高齢者という幅広い世代層との交流を深め、街の活性化に結び付けていることが注目される。また、「岩戸山」の山車を復活させて地域の歴史を担うほか、おむつ替えスペースや授乳室のある店に「ママにやさしい本町商店街」のステッカーを貼るなど地域の生活に深く関わった活動も地域型の商店街だからこそこの活動である。

組合員は高齢化しているが、顧客の嬉しそうな反応に喜びを見出し、商売や組合活動に尽力しており、特に役員の中で最年少の理事長をベテラン理事たちが支えているほか、後継者もイベントの手伝い等でフォローするなど結束力の強さが当商店街の大きな資産となっている。